Since 1965 Creativity and Curiosity
福井高専

青武台だより

令和5年
3月17日発行
NO.230

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
National Institute of Technology(KOSEN),Fukui College

CONTENTS

P2 ▶ 卒業生・修了生に贈る言葉
P4 ▶ 卒業生クラス紹介
P9 ▶ 修了生クラス紹介
P11 ▶ 学生の将来と進路
P13 ▶ 活躍する仲間
P19 ▶ 研修旅行
P21 ▶ 校外研修
P23 ▶ 文化体験日
P24 ▶ 退職にあたって
P25 ▶ 学校通信

Special Interview

～卒業生・修了生に贈る言葉～

君子終日乾乾し、夕べに惕若たり。

校長 田村 隆弘

5年間の学習を修められた5年生諸君、また、専攻科の修了に加えて学士の称号を得られた専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。福井高専を卒業、あるいは修了したという矜持を持って、これからの人生を邁進してください。

旅立ちのはなむけに「卒業証書の重み」について、私が体験したことをお話します。

昨年、11月5日に福井高専同窓会進和会の50周年記念事業で第3期生の特別卒業式が執り行われました。本校の第3期卒業生は、今から50年前の1972年3月に卒業式が行われる予定でした。しかし、当時、国内の多くの大学が学生紛争で混乱している時期で、その余波が本校にも及んでいました。結果、卒業式を挙行することができず、当時の卒業生はクラス担任から証書を渡されて学校を後にしました。彼らの残念な思いを汲んで、進和会が50周年を迎えるのに合わせて、3期生の卒業証書授与式が企画されたということです。

式典で私は、50年間筒の中に収められていた卒業証書のシワを伸ばしながら読み上げるとき、思わず、熱く込み上げてくるものを感じ、言葉につまってしまいました。その卒業証書には、当時の先生達の「よく頑張りましたね。」という言葉と、学生の「ありがとうございました。」という言葉が交錯していることを感じたのです。それは、3期生が卒業して50年経った今にして重たいのです。その証書を手渡すとき、私の前に凛と直立している70歳の3期生は、まさに紅顔の20歳の青年でした。本校を巣立ち、社会人になったら勉強は終わりではありません。人は思考が停止したときに老化が進みます。この日集まった70歳の3期生は、今なお研鑽を積んでおられる方ばかりでした。

皆さんは、これから社会に出て、様々な困難や苦悩、あるいは、貧苦にさえ遭遇するかもしれません。しかし、それらは自身を成長させる試練でもあります。古い言葉に「天のまさに大任をこの人に降(くだ)さんとするや、必ず先ずその心志(しんし)を苦しめ、その筋骨を労し、その体膚(たいふ)を餓えしめ、その身を空乏(くうぼう)にし、行なうことその為(な)さんとする所に払乱(ふつらん)せしむ」というのがあります。

天がその人に重大な仕事を任せようとするときには、必ずその人の心や肉体を痛めつけて、時には貧しさのどん底の生活に突き落とし、何事も思いどおりにならないと思わせるような試練を与えるのである、という意味です。

また、易経に「君子、終日乾乾(しゅうじつけんけん)し、夕べに惕若(てきじゃく)たり。」という言葉もあります。君子は、今でいうリーダーといった人です。「終日乾乾(しゅうじつけんけん)し」とは、朝から晩まで一日中怠りなく、積極果敢に前向きに物事を推進していくこと。「夕べに惕若(てきじゃく)たり」とは、その日の反省をするということです。

リーダーは、毎日、積極果敢に仕事をし、そして、毎日、反省を繰り返すことによって独自の技能や技術、創意工夫を生み出すことができるということを教えています。そこにも苦悩の連続があります。

皆さんも、どうか福井高専の卒業証書を大切にしてください。そして、年を重ねるごとに、その卒業証書の、そして、人としての重みが増すような生き方をしてください。

教職員一同、皆さんの大いなるご発展を心より祈念しております。

Special Interview

～卒業生・修了生に贈る言葉～

教育後援会長 **大澤 和典**

新しい門出

本科卒業生、並びに専攻科修了生の皆様、ご卒業おめでとうございます。教育後援会を代表して心よりお祝い申し上げます。

過去に異例もない新型コロナウイルスの影響で学校、ご家族での感染予防等にご協力いただきまして教育課程を終えることが出来ました。改めてお礼申し上げます。

この先、就職・進学と進む道は一人ひとり異なりますが、福井高専で学んだ知識と経験を元に優れた技術者を目指して頂けることを願っております。人生には終わりはなく、また様々な困難や試練が待ち受けていると思います。困難にぶつかった場合でも、今までの経験を生かし自分で悩み解決して欲しいと思います、もし悩んでも解決出来ない場合はそこであきらめずに先輩、周囲の人を頼る方法もあります。私も社会人を20年程続けていますが、未だに悩むことは数限りなくあります。皆様は若さ、ガッツもあります。本校で学んだ知識もあります。それも過程にして何事もあきらめずに挑戦してみてください。

皆様は福井高専の卒業生という誇りをもち自分が選んだ道をまい進してください。これからの人生が輝かしいものとなり、ご活躍される事を心から祈念しております。

進和会会長 **野嶋 祐記**

アウトプットできる力

卒業並びに修了を迎える本科及び専攻科の皆様、おめでとうございます。進和会を代表して心からお祝い申し上げます。

4月からは、それぞれが新たな職場や学校で気持ちも新たに更なる活躍を期待いたします。皆さんは、貴重な学生生活の3年余りはコロナ禍の中で過ごしましたね。不自由なことも多くあったかと思いますが、全てを前向きに捉え、今までの経験を活かし新たな技術革新などに取組んで下さい。

進和会は昨年「設立50周年記念事業」として、11月には田村校長先生にもご臨席を賜り、盛大に記念式典や講演会も行うことができました。また、進和会Web交流システム「高専コミュニティ」の構築を行い運用も開始させていただきました。皆さんも是非アクセスしてエントリーして下さい。今後はOBOG8,000名を超える仲間の一員です。多くの先輩や後輩達と繋がれる「高専コミュニティ」まだ始まったばかりですが今後はコンテンツも充実させていく予定です。

また、講演会で講師を務めていただきました、電子情報工学科28期の大蔵峰樹氏は今年春開校の、私立「神山まるごと高専」の初代校長に就任されます。ZOZOの前澤友作氏と共にCTOとして活躍され、現在はZOZONEXT取締役を務められています。高専として19年ぶりの新設校として徳島県神山町に4月開校します。大蔵氏の話では、今までにはない起業家精神と情報工学を学び、「モノをつくる力で、コトを起こす人。」モノを作る力やビジョンを語る力を持ち、高い温度感でアウトプットできる人材がこれからの日本には必要と強く感じているとのことでした。

皆さんも今後は未来を見据えてビジョン語る力とアウトプットできる力を意識して何事にも挑戦してみて下さい！

機械工学科

～卒業生クラス紹介～

機械工学科5年担任 **加藤 寛敬**

3年間を振り返って

5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。高専での学びは、皆さんにとって人生の礎になるはずです。自信を持って新しい道に進んで下さい。

さて、この3年間を振り返ると、まさにコロナ禍の3年間でした。担任を引き継いだ4月からいきなり臨時休校となり、最初のホームルームはリモートでした。楽しみにしていた研修旅行は中止、4年インターンシップはオンラインまたは企業研究に切り替わり、体育祭、高専祭などの学校行事は様々な活動が制限された中での開催となり、クラス毎でのイベントだった文化体験日は2年連続で天候に恵まれず行先を変更せざるをえませんでした。かけがえのない貴重な青春が我慢の連続でした。しかしながら、皆さんは一言も不満を漏らすことなく（心の中では思っていたかもしれませんが）、目の前のできること・やるべきことに集中し学業や学校生活に真摯に取り組んできました。これはとても立派なことです。立派に成長した皆さんを誇りに思うと同時に、クラス運営への皆さんの理解と協力に深く感謝します。

これからも困難なことがあるかもしれませんが、皆さんならどんな壁でも乗り越えられるでしょう。健康に気を付けて頑張って下さい。そして母校に元気な姿を見せに来て下さい。ご活躍を祈っています。

機械工学科5年代表 **福谷 和信**

高専生活を振り返って

福井高専での5年間の学校生活も残りわずかになりました。この春から多くのクラスメイトが職に就き働き始めると思うと、入学したときは漠然としていた将来像が段々と現実味を帯びてきました。今振り返ると、レポートや製図など、大変な量の課題に追われた辛い日々ばかりが思い出されますが、それらがあったからこそ卒業までたどり着けたんだと実感しています。その過程の中で先輩やクラスメイト、先生方にはたくさん助けていただきました。今となっては感謝の言葉しか出てきません。それほど充実した高専生活を送ることができました。

一方で、私は1年生の頃から楽しむことばかり考えていました。勉学に励むにしても、何かの運営に関わるにしても、目的や意味を考え、課題を解決することの喜びを見出してきました。ちょっと楽観的過ぎるかもしれませんが、ポジティブに物事をとらえることはとても大事だと感じています。在校生の皆さんも、困難に直面したときはとにかく明るく振舞ってみてください。一生懸命、目の前のことに向かい合えば何とかなります。

最後になりますが、高専を卒業するにあたり5年機械工学科の皆様、そして先輩や後輩、先生方には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

電気電子工学科

～卒業生クラス紹介～

電気電子工学科5年担任 **秋山 肇**

贈る言葉

5Eの皆さん、ご卒業おめでとうございます。
諸君が福井高専に入学した2018年度に私も本校に赴任しました。以来5年があっという間に経過した気がします。特にこの3年間は私にとって初めてのクラス担任でした。3年生では新型コロナが猛威を振るい、オンライン授業を余儀なくされましたね。画面越しの授業が続き不安に感じたこともありましたが、登校が再開されると全員が揃って元気な顔を見せてくれると安堵したことを覚えています。4年生でのインターンシップはいい思い出になりましたか？発表会での堂々としたプレゼンに「高専生らしさ」を感じました。5年生進級と同時に始まった進路決定は正に各人各様で、担任としてどこまで寄り添えたのか？を考えると正直あまり自信はありませんが、諸君の屈託ない笑顔を見ていると卒業後の進路に希望を持ってくれているのだと思えます。

福井県出身の地質・鉱物学者に比企忠博士がおられます。日本が近代化に舵を切った明治期に世界中から鉱物標本を収集・分類し、学術・産業の基礎となる鉱物学の知見について集大成を図られた学者です。その膨大な標本を見る度に様々な特性を有する原石が諸君の今と重なります。卒業後も己を磨き、確固たる珠玉となるべく自身に満ちた人生に船出して下さい。

電気電子工学科5年代表 **川﨑 愛柚**

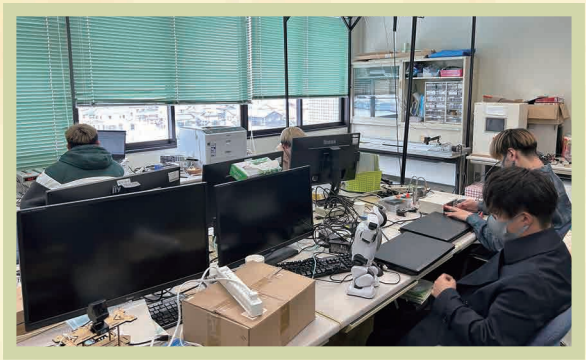
『福井高専での5年間』

入学から5年が経ち、私たちは卒業を迎えようとしています。入学したころは、5年間はとても長いイメージがありましたが、あっという間に過ぎてしまいました。そんな5年間でしたが、振り返ってみるとたくさんの思い出があります。1年生では、5学科が混ざったクラスで、他学科の友人がたくさんできました。2年生になると学科ごとにクラスが分かれ、専門科目が増え、実験も始まりました。3年生は新型コロナウイルスの影響で、夏休み明けまでリモート授業になり、楽しみだった研修旅行にも行くことができませんでした。4年生になると、企業セミナーやインターンシップを通し、将来について考えだすようになりました。そして、5年生では就職・進学に向けて本格的に動き出しました。35人全員が無事に進路を決めることができたのでよかったです。

最後になりましたが、一般科目および本学科の先生方、技術職員の方々、部活顧問の先生方、私たちの快適な学校生活を見守ってくださった主事団の先生方に御礼申し上げます。また、5年間共に過ごしたクラスメイト、お世話になった先輩方や後輩のみんなとの出会いに感謝しています。本当にありがとうございました！

電子情報工学科

～卒業生クラス紹介～



電子情報工学科5年担任 **高久 有一**

更なるチャレンジを!

ご卒業おめでとうございます。この春に、君たちが本校を巣立つことを心より嬉しく思います。そして、君たちを支えてくれた保護者の方々には、感謝の気持ちで一杯です。

振り返ってみると、前例のない特殊な高専生活でした。2年次終了後の春休みには、日本国内でもコロナウイルス感染者が出始めました。そのため、3年次前期はリモート授業となり、先が分からず不安な日々を過ごしたかと思います。後期になると対面授業に戻りましたが、研修旅行は中止となりました。先輩のインターンシップ報告会や卒研発表会、企業説明会などの多くもリモートでの参加でした。4年次のインターンシップや5年次の就職活動も、多くがリモートでの実施でした。現在、新型コロナウイルス感染拡大「第8波」が、ピークを越えたようですが、君たちはこの変化に柔軟に対応し卒業に至ったわけです。

この間、東京オリンピックが開催され、第5世代移動通信システム「5G」が始まり、自動運転システムが実用化されつつあります。本校で学んだ君たちが、その知識と経験を活かし活躍する場は、無限にあります。新しいことにたくさん挑戦し、たくさん失敗をし、知識と経験を増やし続け、更なる成長をして下さい。本校を卒業した君たちなら、きっと何か新しいことができます。

最後に、アインシュタインの言葉を君たちに送ります。

「Anyone who has never made a mistake has never tried anything new.」

電子情報工学科5年代表 **多田 敬栄樹**

福井高専サイコー

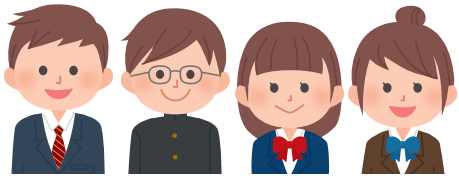
高専で勉強する時間が刻一刻となくなっています。専攻科に行く人は、これからも高専で頑張ってください。5年という歳月は長いですが、気づいたら終わってしまいました。私は低学年の頃、「高専という選択ミス」だと感じていましたが、今となっては「福井高専サイコー」って感じです。

私たちはコロナウイルスの影響により研修旅行に行けなかったり学校行事が制限されたりなど苦労しました。しかし、私たちの絆はそんなものに左右されるほどやわなものでは無いと信じています。

春から私たちは望んだ道に進みます。就職の人や大学に行く人などこれから楽しいことはたくさんありますが、やはり大変なことや悲しいこともあると思います。そんな時はこの5年の苦労を思い出せば気合いで乗り切れると思います！みなさん頑張りましょう。

最後になりますが、教職員の方々、学食や売店のおばちゃん、先輩、後輩、皆さんとの出会いを心から感謝しています。これまでお世話になりました。

福井高専サイコー



物質工学科

～卒業生クラス紹介～

物質工学科5年担任 **西野 純一**

「ご卒業おめでとう」

「ご卒業おめでとう」でも、3年生からマスクで隠され、あなた方の素顔を覚えていません。ゆえに、私は君たちのことを長く記憶に留めて置くことはできないと思います。「去るものは日々に疎し」というわけで、今から謝罪しておきます。「お詫びの言葉もございません」。マスクは飛沫感染の防止が主で、SARS-CoV-2 Omicron lineagesのエアロゾル感染には、ほぼ無意味なのに残念です。現在は「post-truth」という時代に入っていると言えます。論理的に考えれば真実ではないとわかることも、情報統制と恐怖に支配され「新聞やテレビで報道していることは正しく、信用できる」、「googleで検索してもヒットしないから、その事象は存在しない」などといった思い込みから、デマが信じられ真実が陰謀論とされたりしているのです。例えば最近、「除草剤であるグリホサートは危ない」、「日本ではグリホサートの基準値を緩めた」と言われています。このことを自ら調べ何が正しいのか科学的かつ論理的に考えてください。また、真実は時間の経過でも変化します。検索エンジンを検閲が酷すぎて役立たずの「google」から「DuckDuckGo」や「Preserch」等に変え事実を探求し、いつまでも自ら考え続け、正しい選択をして健康でいてください。“Health is everything” コーシャマークについても調べてみてください。

物質工学科5年代表 **山口 諒介**

「高専生活」

この5年間、様々なことがありました。授業、実験、レポート、テストなど大変な事だらけでした。特に、テストでは、わからないところだらけで、友人たちと教え合ったりしながら勉強して乗り越えることができました。また、3年生のときのコロナウイルスによる長期間のオンライン授業では、クラスのみんなとも会えず、実験などもできず、とても辛かったです。研修旅行もコロナウイルスによって無くなってしまい、辛い思いをしましたが、高専祭や体育祭を通して楽しい思い出を作ることができたと思います。入学したときは、クラスのみんなと仲良くなれるか、ちゃんと進級できるか、上手くやっていけるか不安でしたが、ようやく卒業までたどり着くことができました。5年間高専で学んだ多くのことを、これからの人生で活かしていければと思います。後輩たちには、残りの高専生活を存分に楽しんでほしいと思っています。

先生方をはじめ、高専で出会えた人たちに感謝し、今後も頑張っていきます。5年間ありがとうございました。

環境都市工学科

～卒業生クラス紹介～

環境都市工学科5年担任 **田安 正茂**

人生色々あるけれど

環境都市工学科26期の卒業を迎えたみなさまへ。卒業おめでとうございます。また、本クラスをご指導いただいた教職員の方々におかれましては、誠にありがとうございました。

新型コロナウィルスに翻弄された3年間ではありましたが、クラスのみなさんと楽しく学ぶことができ、みなさんの成長を実感するとともに、私自身も成長することができました。みなさんも自分自身の成長を実感できていますか?

みなさんの担任をしている間に、私は50歳となりました。みなさんと30歳もの年の差に愕然とします。自分自身のこれまでの30年間を思い返せば、本当に色々な出来事がありました。それら一つひとつの出来事が今の自分を形作っていることを実感します。きっとみなさんも、これからの30年間には色々なことがあると思います。みなさんが歩むこれからの人生において、福井高専で過ごした5年間は想像以上の実りをもたらしてくれます。その実りに感謝しつつ、これからも楽しく努力を続け、自分自身の幸せを大きくしていきましょう。また、さらに、自分の周りにいる人もその人の幸せが大きくなるように心がけていきましょう。人生色々あるけれど、楽しく豊かに乗り越えていきましょう。

環境都市工学科5年代表 **大久保 洋平**

『長い人生を送ってください』

この福井高専に入学してからの5年間、長いと感じる人もいれば、短いと感じる人もいるでしょう。私はどちらかというと後者です。同じ校内で過ごす時間は小学校の6年間に次いで長いのに、福井高専での5年間は小学校での6年間の半分にも満たないように感じました。人の体感時間の長さは「新しい経験」の量に関係しているそうです。新しい経験をしている人の体感時間は長くなり、逆に新しい経験をしない人の体感時間は短くなります。確かに私は福井高専に入学してから新しい知識を得たものの、新しい経験は少なかったように思います。私の福井高専での生活は課題とレポート、部活、年に4回実施されるテストをこなす。その繰り返しでした。

高専は生徒が様々なことにチャレンジすることを推奨しています。私のような高専生活を送っている人も少なくないと思いますが、学年が変わるこの機に様々な挑戦をしてみてはいかがでしょうか。私もこれからは様々なことに挑戦し、長い人生を送りたいです。5年間ありがとうございました。

生産システム工学専攻

～修了生クラス紹介～

生産システム工学専攻主任 **亀山 建太郎**

『修了生に送る言葉』

修了おめでとうございます。君達は、高専で多くの経験をし、多くの人は社会に出ていくわけですが、その際の最も大きな変化は、学ぶ側、つまり、提供される側から、提供する側に立場が変わるという点であると思います。なかなか厳しい世の中ではありますが、なんとか楽しくやってもらいたいと思います。そのために、私が大切だと思うことは、まずは、与えられたことに本気で取り組みということだと思います。意に沿わないことや興味が無いこともあるかと思いますが、一生懸命取り組み学習することにより興味を持つことができたり、興味のある方向に道が開けたりすることは、よくあることです。そのために、他人のサポートやアドバイスを受け入れることや、意識的に自分自身を成長させることを意識して、日々の仕事や生活に臨んで欲しいと思います。そして、何年か経った後で、「ベストでは無いかもしれないけど、まあ良かったんじゃない？」ぐらい思えるようであれば、大成功だと思います。先輩講座で楽しく話をしてくれることを期待しています。

生産システム工学専攻2年代表 **森川 凱都**

千載一遇

私は「ものを造ること」が好きという理由で高専へ入学しました。学習の基礎を固めるための一般科目の中で、異質を放つ専門科目。機械の楽しさ、危険について身をもって体感した「工作実習」、安寧に終わりを告げた「4力」。そんな本科で5年間を過ごし、さらに2年間、専攻科に行くとは考えてもみませんでした。

この専攻科では、特別研究や授業の一環として参加した高専デザコンなど、様々な立場の方々と触れ合う機会がありました。仕事での経験や知識を見聞し、経験不足や視野の狭さを実感することも多々ありましたが、この2年間で大きく成長できたと思っています。また、専攻科での学生生活では自分の進路について深く考える機会となり、本科の時にざっくり考えていた進路とは全く違う道に進むことになりました。ですが、新しいことを経験できることに大変わくわくしており、今では専攻科に入学して正解だったと思っています。

最後になりますが、研究活動や学会発表など様々な経験をする機会を与えてくださった金田先生、7年間ご指導・サポートしていただきました先生方、本当にありがとうございました。また成長した姿をお見せできるように頑張ります。

環境システム工学専攻

～修了生クラス紹介～

環境システム工学専攻主任 **野々村 善民**

「変化する社会情勢」

専攻科を修了し、おめでとうございます。令和5年となり、この原稿を読む時には、ウクライナ情勢とコロナ禍は継続しているものと思います。世界情勢は激動の変化により、これまでの生活習慣が大きく変わる恐れがあります。一方、私達の学校生活は落ち着いた状態でした。

修了生の皆さんはこれから就職および進学された新しい進路先において、これまで以上の早いスピードで、社会から高いレベルの成果が求められます。

新年度となって、専攻科で修得した専門知識に加えて、新しい多岐の専門知識が必要となります。新年度の生活が不安となるかも知れませんが、これから技術的な壁が目の前に何度も現れます。その際、楽しい気持ちで何事にも取り組むことで、周りの方々から暖かい支援が得られるものと思います。抽象的なアドバイスとなりますが、平穏な状況の中であっても、将来の目標に向かって、具体的な行動を意識して新しい生活を送ってください。

環境システム工学専攻2年代表 **瓜生 菜和**

福井高専での7年間

気づけば本科・専攻科合わせて計7年間も福井高専に通っていました。特に専攻科での2年間は社会に出る人間として大きく成長できたと感じます。

専攻科では全学科が集まってのグループ学習があり、これまで交流がなかった他学科の人たちと意見を交わし一つの作品を作り上げることで、新しい視点や本科では学べなかった他専攻の知識を得ることができました。また、特別研究では自分が興味のある研究を行うことができ自専門の知識・技術をより深く学ぶことができました。そして、専攻科の授業では学外に行くことが多くこれらを通して他専攻の友人ができました。ここでできた友人たちと長期休暇には遊びに行ったり、飲み会をしたりとても楽しい学生生活での思い出を作ることができました。

多くの人たちのおかげで私の福井高専での7年間はとても充実したものになりました。最後になりますが、今まで指導してくださった先生方、出会ってくれた友人の皆さん、支えてくれた家族、本当にありがとうございました！

～学生の将来と進路～

令和4年度 進路内定状況報告

キャリア支援室長 井之上 和代

本年度の本校の就職希望者の割合は55%（昨年度より増）、その内県内企業の内定者は36%（昨年度より微減）でした。本校への求人数は延べ7,018社で昨年度の約130%と増加しました。全体の求人に占める県内企業の割合は10%で、昨年度とほぼ同じでした。

就職活動スケジュールは前年度と同じ広報活動の解禁が3月、採用活動の解禁が6月で、コロナ感染予防対策のオンラインを活用した就職活動を併用しつつも、対面による企業説明会、面接などの実施が戻ってきました。他方、進学の状況については、本科の進学内定者は専攻科進学32名、大学編入学が54名でした。また、専攻科から大学院への進学内定者は4名でした。専攻科への進学者数、専攻科から大学院への進学者数は昨年度よりも減少となりました。専攻科・大学・大学院入学試験の合格者のうち推薦は74%でした。コロナ禍でも各入試の日程や方法はコロナ以前とほぼ同じでした。

来年度は、コロナや世界情勢などの影響による経済の落ち込みが続くことが心配されていますが、一方で人手不足であるとも言われていて、本校への求人数は就職希望者数に対して十分な数になると思われます。ただし、企業はただ人手不足を充足したいのではなく、将来を見据えて優秀な人材を少ない希望者から選り抜きたいと考えています。2024年度卒の学生から、一定の条件を満たしたインターンシップに参加した学生の情報を採用活動に使用できるようになりますので、就職活動の早期化に拍車をかけるでしょう。高専への求人数の多さに甘えることなく、早い段階から自己分析、業界・企業研究を進め、自己の目標に対して幅広い視野を持って臨み、進路選択できるようにしてください。

最後に本校のキャリア教育にご理解とご尽力いただいている関係教職員及び保護者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

令和4年度 進路内定状況

令和5年2月13日現在

学科	区分	卒業・修了予定者数		進学希望者数		内定者数 大学・大学院		内定者数 専攻科		内定者数 その他進学		未定者数		就職希望者数		内定者数 県内		内定者数 県外		未定者数		その他	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
本科	機械工学科	39	2	15	0	9	0	6	0	0	0	0	0	24	2	7	1	17	1	0	0	0	0
	電気電子工学科	31	4	12	0	7	0	5	0	0	0	0	0	19	4	4	1	15	3	0	0	0	0
	電子情報工学科	30	4	21	2	16	2	5	0	0	0	0	0	9	2	4	0	5	2	0	0	0	0
	物質工学科	18	20	7	5	6	3	1	2	0	0	0	0	11	15	5	5	6	10	0	0	0	0
	環境都市工学科	27	12	15	6	8	0	7	6	0	0	0	0	10	6	2	3	7	3	1	0	2	0
	小計	145	42	70	13	46	5	24	8	0	0	0	0	73	29	22	10	50	19	1	0	2	0
専攻科	生産システム工学専攻	12	2	2	0	2	0					0	0	10	2	6	1	4	1	0	0	0	0
	環境システム工学専攻	6	5	2	0	2	0					0	0	4	5	4	1	0	4	0	0	0	0
	小計	18	7	4	0	4	0					0	0	14	7	10	2	4	5	0	0	0	0
合計		163	49	74	13	50	5	24	8	0	0	0	0	87	36	32	12	54	24	1	0	2	0

～学生の将来と進路～

令和4年度 大学編入学試験・高専専攻科入学試験合格状況

令和5年1月25日現在

大学等	学部等	機械工学科				電気電子工学科				電子情報工学科				物資工学科				環境都市工学科				合計			
		推薦		学力		推薦		学力		推薦		学力		推薦		学力		推薦		学力		推薦		学力	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
北海道大学	環境社会工学科																	1				1			
筑波大学	情報学群											1												1	
電気通信大学	I類									1												1			
東京工業大学	環境・社会理工学院														1								1		
長岡技術科学大学	工学部	1		1		1		1		1		1		4				2				9		3	
新潟大学	理学部															1								1	
金沢大学	理工学域	1				1				2												4			
金沢工業大学	情報フロンティア学部											1												1	
福井大学	工学部			1		2				1		5										3		6	
豊橋技術科学大学	工学部	3		1						1				1	2			3		1		8	2	2	
京都工芸繊維大学	工芸科学部					1		1		1												2		1	
佐賀大学	理工学部	1																				1			
東京都市大学	建築都市デザイン学部																	1				1			
日本大学	理工学部											1												1	
立命館大学	理工学部										1												1		
福井高専専攻科	生産システム工学専攻	6				5				5												16			
	環境システム工学専攻													1	2			5	5	2	1	6	7	2	1
計		12		3		10		2		12	1	9		6	5	1		12	5	3	1	51	11	18	1

令和4年度 大学院入学試験合格状況

令和5年2月13日現在

大学院	専攻	生産システム工学専攻				環境システム工学専攻				合計			
		推薦		学力		推薦		学力		推薦		学力	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
金沢大学大学院	自然科学研究科					1				1			
福井大学大学院	工学研究科	1				1				2			
福井大学大学院	連合教職開発研究科			1								1	
計		1		1		2				3		1	

Special Interview

～活躍する仲間～

電子情報工学科4年 **伊藤 晴仁**

プロコンに参加して

今回参加したプログラミングコンテスト課題部門のテーマは「オンラインで生み出す新しい楽しみ」というものだった。それに対して子供向けの骨格推定を用いたオンライン公園を作った。

今回のプロコンを通して、初めて知ったり、得たりした知識や技術があり、自分自身へのスキルアップにつながったと思う。特に骨格推定の技術は今まで全く触れていなかったため、いい経験になった。同時に自分が持っている知識や技術は最先端から程遠いものであると実感した。

また、今回は、今まで以上に長期間チームでプロジェクトに取り組んだため、チームワークの重要性も実感することができた。実際の職場でもチームでプロジェクトに取り組むと思うので、その練習になったと思う。

また、本選当日に他高専のアイデアや成果物を実際に見聞き、体感することで、自分にはなかったアイデアや技術に触れることができた。

今後もこのようなコンテストに参加したりして、自分自身のスキルアップや、他の人とのコミュニケーションや協力できるようにたくさんの経験を積んでいきたいと思った。

最後に結果として、課題部門では「特別賞」を受賞し、全体の4チーム選出される「NICT」賞も受賞することができた。

環境都市工学科4年 **窪田 多久見**

石川高専との協力を通して

デザコン創造部門の本戦出場は、去年に引き続き2度目のことでした。昨年は賞を受賞できなかったという悔しさと新しい視点から提案を作り上げたいという思いから、今年は石川高専の建築学科の方達と共同で提案を作り上げていくという流れで進めていくことになりました。

打ち合わせは主にオンラインで行い、石川高専にも何度か足を運ぶ中で、直接会って話し合うことと遠隔でやり取りをすることの違いを実感したような気がします。それと同時に、これまでのデザコンで他高専との共作案が実現しなかった理由も痛感しました。

特にテストや長期休暇、学校行事などの期間に差があったため、デザコンに取り組んだ約半年間はお互いの時間を譲歩し合いながら進めていく必要がありました。ほとんど初対面かつ、デザコン未経験のメンバーがいる中でお互いのアイデアを出し合い、指摘し合うという機会は私の中で衝撃的な経験となりました。結果として審査員特別賞を受賞することができました。しかし、それ以上に半年間の準備と本戦で得られた全国の高専生や審査員の方々と話す機会は、自分にとって意味のあるものになったと感じています。

環境システム工学専攻2年 **井波 大地**

The 20th International Symposium on Geo-disaster Reductionに参加して

私は、2022年8月に開催されたThe 20th International Symposium on Geo-disaster Reduction に参加し、今年度の研究成果を発表した。この国際学会への参加は、私が所属する研究室の指導教員から提案された。これまでの学業において、プレゼンテーションは何度も経験してきたが、発表から質疑応答まですべて英語で行ったことは一度もなかった。この発表は今後の自分の人生においてとても良い経験になると思い、国際学会への参加を表明した。発表練習過程において、自分の英語が正しく聞き手に伝わらないことで全く意味のないプレゼンテーションになることを防ぐため、発表スライドにアニメーションを加える、自分が話している部分を手で指し示しながら発表する、等の工夫をした。結果、私の発表はBEST PRESENTATION AWARDを受賞したが、今回の国際学会への参加には多くの方々の支えがあった。他者の意見を取り入れ、より客観的な主張をすることの重要性を改めて実感した。この経験で得られたことを自分自身で吸収し、今年の四月から始まる社会人人生でも様々なことに挑戦していきたい。

Special Interview

～活躍する仲間～

環境都市工学科4年 **寺前 海斗**

インフラテクコンに参加して

私は、第三回インフラマネジメントコンテスト（以下、インフラテクコン）に「砂防with折り紙」として参加しました。インフラテクコンは、全国の高専生がインフラに関するアイデアを競うコンペです。私たちの提案内容は、「日本最古の砂防堰堤の発見と新しい遊水地の計画手法の提案」です。本提案は、全18チームの中でグランプリを受賞しました。

本提案のポイントは二つです。一つ目は、一乗谷上城戸の透過型砂防堰堤としての機能を明らかにしたことです。本成果は、日本建築学会の査読論文として採択されました。二つ目は、流体数値シミュレーションの氾濫解析で得た知見を基にした新しい地下貯水工法の提案です。本工法の工夫点は中詰め材です。ミウラ折りという折り紙技術により、中詰め材の使用性は向上します。

インフラテクコン参加を通して私は、コンペへの取り組み方を学びました。一つ目は、毎日継続して作業を行うことです。二つ目は、研究活動を並行して行うことです。なお、作文能力や論理的思考力は研究活動において必要不可欠です。これらの能力の向上が私の今後の課題です。

F5 **梶 京四朗**

近畿総文祭和歌山大会に参加して

11月26日、私達は将棋を指しに和歌山へ行きました。久しぶりの遠出でもあったので、私はこの日をとても楽しみにしていました。

会場につくと、そこには私と同じぐらいの学生がたくさんいました。みんなこの大会のためにはるばる集まってきたのかと思うと、私は少し緊張しました。しばらく待つと、大会が始まりました。

1日目は2連勝して予選を通過することができました。幸先の良いスタートを切れてよかったです。

2日目、私の目標は最低1回勝つことでした。それ以降は楽しんで指そうと考えていました。あくまで結果論ですが、そう思うことによってリラックスすることができ、普段以上の実力を発揮することができたのかもしれません。私は1局1局を大切に戦いました。そして幸運にも優勝することができました。

最後になりましたが、大会を運営してくださった方々、大会のために尽力してくださった先生方、本当にありがとうございます。深く感謝申し上げます。

～活躍する仲間～

令和4年度 優秀学生賞受賞者一覧

日本機械学会畠山賞
大学・短大・高専の機械系学科卒業者で
人格、学業ともに優秀な学生を表彰

機械工学科5年　**福谷 和信**

公益社団法人計測自動制御学会 優秀学生賞
大学・短大・高専の機械系学科卒業者で
人格、学業ともに優秀な学生を表彰

機械工学科5年　**谷口 匠**

公益社団法人計測自動制御学会 北陸支部優秀学生賞
同学会の主催・共催する発表会で
実績のある優秀な学生を表彰

機械工学科5年　**岩本 裕太**

電気学会北陸支部優秀学生賞
電気学会主催の大会に参加し、各大学高専から
成績優秀な学生を表彰

電気電子工学科5年　**田中 伶奈**

公益社団法人日本電気技術者協会 北陸支部優良卒業生
高専及び高校の電気科課程の優良卒業生
（就職内定者対象）を表彰

電気電子工学科5年　**矢路 耀**

一般社団法人映像情報メディア学会 北陸支部優秀学生賞
年次大会・冬季大会で発表された講演から学生発表を
対象に優秀な発表を行った学生を表彰

電気電子工学科5年　**木下 颯**

電子情報通信学会 北陸支部優秀学生賞
電子情報通信関係大学・高専で、学業と研究業績が
優れた学生を表彰

電子情報工学科5年　**林 明香里**

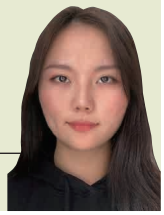
情報処理学会北陸支部優秀学生賞
情報処理関係の大学及び高専等において、学業成績が
優秀であり、かつ将来の活躍が期待される学生を表彰

電子情報工学科5年　**小川 大翔**

公益社団法人日本化学会 近畿支部支部長賞
近畿、北陸地区高専の化学系課程の
優良卒業生を表彰

物質工学科5年　**伊部 実由布**

公益社団法人日本化学会 近畿支部支部長賞
近畿、北陸地区高専の化学系課程の
優良卒業生を表彰



物質工学科5年　**MASHBAT MANDUKHAI**

日本分析化学会中部支部 優秀高専学生賞
中部地区高専の分析化学系課程の
優良卒業生を表彰

物質工学科5年　**鈴木 悠心**

全国高専土木工学会近藤賞
全国高専土木系学科卒業者で、人格、学業ともに
優れた学生を表彰

環境都市工学科5年　**大久保 誓也**

Special Interview

～活躍する仲間～

令和4年度 ガリレオコンテスト採択一覧

学年	学科	代表学生	テーマ	連絡教員
5	環境都市工学科	園　彩香	伝統工芸技術「金継ぎ」による構造物の維持管理および啓発活動	芹川 由布子
1	環境システム工学専攻	小谷　啓仁	持続可能な森林管理のための傾斜地監視に用いる微生物燃料電池の開発	松野　敏英
4	環境都市工学科	寺前 海斗	インフラテクコンの全国大会に挑戦「砂防と折紙」	野々村 善民
3	電気電子工学科	高山　遼	自転車発電機の製作	荒川　正和
2	電子情報工学科	岡本 篤舎	入浴人数カウンタのデジタル化の検証	村田　知也 原口　治
5	機械工学科	仕入　誠	エコマイレッジチャレンジ	門屋　飛央

令和4年度 福井高専ガリレオコンテスト概要報告

環境都市工学科5年 **園 彩香**

「ガリレオコンテストを通して」

我々は今年度、「伝統工芸技術【金継ぎ】による構造物の維持管理および啓発活動」と題し、活動を行いました。このプロジェクトは、構造物は新しいものを造るのではなく、劣化した構造物にメンテナンス・維持管理を行い既存の構造物を長寿命化させる現代の背景から着想を得ました。劣化現象の一つにコンクリートのひび割れがあります。このひび割れは福井高専構内にも多数みられ、それを「金継ぎ」という手法で補修することで、高専構内の建物を補修し、長寿命化できるのではないかと考えました。加えて、金継ぎの技術は大変美しいものであり、写真映えするものです。これを学校内に施すことで、いわゆる「インスタ映え」に繋がるのではないか、そして、この金継ぎした建物を写真に撮ってもらい、SNSで拡散してもらうことで、構造物の長寿命化の実態を啓発活動できないかなと考え、活動を続けてきました。

はじめに、金継ぎの練習を行いました。簡易的な金継ぎセットのようなものでしたが、細かい作業で大変難しいものでした。次に、コンクリート供試体を作製・破壊試験を行い、このコンクリートに金継ぎを施すことで、有効性を検証しました。僅かではありましたが、有効性を実証できるデータを得ることができました。そして活動の最終目標としての、校内に金継ぎを行いました。現状では環境棟の一部分のみの施工となっているため、景観の評価や広報活動については、来年度に引き継ぎたいと考えています。

環境システム工学専攻1年 **小谷 啓仁**

小さな微生物で未来を支える電池をつくる

微生物がいる土壌で発電できる。これは微生物燃料電池と呼ばれる技術だ。いまのところ、この微生物燃料電池が発電できる土壌は限られており、水田や汚泥のような水分たっぷりな土壌で発電できる。私たちはもう少し水分が少なめな土壌、具体的には、森林の土壌で発電したい。日本の森林面積は約2500万ヘクタールであり、国土の約67%が森林である。森林で土砂崩れが発生すると、森林での作業者・付近の家屋や構造物（家、道路、鉄道、電線、水道、橋、トンネル）が被害を受ける。もしも、土砂崩れを監視できる土壌センサーがあれば、土砂崩れの前兆に気づき、被害を小さくできるだろう。この土壌センサーの課題は電源である。森林のあちこちに埋めている土壌センサーの電池を定期的に交換することは現実的に不可能だ。森林の土壌で微生物燃料電池を電力供給源にして、土砂崩れを監視する土壌センサーが作動すれば、持続可能な森林管理に貢献できる。私たちは土壌の水分量

Special Interview

～活躍する仲間～

や土壌に生息する微生物種に着目して、新規な微生物燃料電池の開発に挑戦している。読者さんが、私たちの研究をきっかけに、微生物に興味を持っていただければ嬉しい限りである。微生物を研究したい！と感じた学生さんは、私たちの研究室（物質工学科の松野先生）にいらしてください。一緒に研究しましょう。

環境都市工学科4年　**寺前 海斗**

インフラテクコンの全国大会に挑戦「砂防と折り紙」

ガリレオコンテストを通じて、私たちは先人の創意工夫に新たな技術を加えたものをインフラテクコン2022に提案し、グランプリを受賞することを目標としました。

2年前から、私たちは福井市の一乗谷について研究を続けています。この研究成果の一部として、城壁として建造された上城戸が透過型砂防堰堤の機能を有することを明らかにしました。また、流体数値シミュレーションの解析結果から、透過型砂防堰堤の周囲に新しい遊水池が必要となることも明らかにしました。戦国時代の一乗谷の人口は最盛期で1万人でした。城下町の一乗谷が滅亡する直前に、客将の斎藤龍興の武家屋敷が建てられました。その建設地は上城戸の上流側にあり、そこは大雨時の遊水池であったことがわかりました。

なお、上述の上城戸に関する研究成果は日本建築学会の査読論文として採択されました。インフラテクコンの提案を通して、透過型砂防堰堤と遊水池の関係を学び、私たちは市街地の内水氾濫対策として新しい地下貯水工法を組み合わせることにしました。この地下貯水工法の重要な部材は中詰め材です。この中詰め材を使いやすくするために、私たちは折り紙を用いて中詰め材を試作しました。この試作品の素材は紙、プラスチック段ボールと塩化ビニールです。今後の課題は、素材の特性に合うミウラ折りを考案し、中詰め材の実用化技術を開発することです。

電気電子工学科3年　**高山 遼**

自転車発電機開発の途中経過について

私は昨年の夏季休暇から自転車発電機の製作を開始し、同年の12月に成果を発表、主に性能の評価方法に関する意見を多く頂いた。その後、冬期休暇中に発電機の改良を行った。現在、発電機本体は完成状態であり、春期休暇に入ってからその性能評価を行う予定である。

製作した装置は名前の通り、古い自転車のペダルを漕ぐことで発生する動力を、自作した発電機に伝え電磁誘導によって発電する方式である。冬期休暇中には発電機本体の出力を増加させる改善をした。漏れ磁束を減少させるために回転部の材質を木から鉄に変更、磁束を強化するためネオジム磁石の数を2倍にし、更にコイルに与える磁界の強化のためにステータ角度を調整し、ローターとの間隔を狭めた。結果、手回しではあるものの出力の増加が認められた。今後はこれを実際に自転車に搭載し、ペダルとチェーンによる回転でどれくらいの出力を得られるのかを、抵抗を負荷として確認したい。また発表会でも話題に上がったが、出力と回転速度との関係が分かれば、グラフ化して出力の分かりやすい評価ができるようになる他、速度の観点から出力を増加させる手掛かりにもなり得るため、より慎重に調査したいと考えている。

最終的にはバッテリによる蓄電を視野に入れているため、使用するバッテリの選定、充電の速度も併せて考察していく予定である。

Special Interview

～活躍する仲間～

電子情報工学科2年 **岡本 篤舎**

学寮の浴場の混雑度モニタ

私たちは学寮の浴場の混雑度を確認できるシステムの制作を行っています。

現在、学寮には大きな浴場があり、寮生は毎日その浴場を利用しています。しかし、時間によっては混雑することがあります。そこで私たちは、浴場の混雑度を見に行かなくても確認できるシステムがあれば、空いている時間にお風呂に入りたいという人の希望を叶えることができるほか、新型コロナ対策としての効果もあると考えられ、寮生の生活を改善できると考えました。

しかし、このシステムを作成するにあたって、プライバシーの確保という問題がありました。浴場の混雑度を確認できるというシステム上、その他の場所に比べてもより十分なプライバシーが確保される必要があります。そこで私たちは、混雑度の検出にカメラではなく、測域センサという距離センサの一種を用いることでプライバシーへの配慮を行いました。このセンサでは、取得するデータはセンサからの距離のみになるので、全く個人を特定することができません。

実際、このようなシステムは既に商品として存在しますが、市販されているものでは解像度が高く、高価なセンサが用いられており、システムとしての価格も非常に高価です。そこで低解像度で安価なセンサを用い、解像度の低い分をAIで補うことで、安価でプライバシーに配慮したシステムの制作を行っています。

このプロジェクトはもう1年活動期間があるので、これからも頑張りたいです。

機械工学科5年 **仕入 誠**

令和4年度ガリレオコンテスト研究概要報告

私たちは、エコマイレッジチャレンジへの参加を通じ、より低燃費なマシンを製作することで、機械加工に触れ、柔軟な考え方を養うことを目的とし1年間活動を行ってきました。エコマイレッジチャレンジとは、統一エンジン（スーパーカブ）、オリジナルの車体でその燃費を競い合う競技会です。今年度で競技会出場は2年目となり、このガリレオコンテストの活動の中で、昨年から更に改良を施しました。主な改良点としては、一部の部品の材質を変更することによる約1.9kgの軽量化と、スプロケットサイズの変更による高トルク化の2点です。改良を施したマシンで、昨年度の記録を更新するため、9月中旬に長野県のクリーンピア千曲で開催された「エコマラソン長野2022」に出場しました。2日間を通じ結果として、マシンに大きなトラブルや故障は発生せず、全6回の計測のうち5回完走と信頼性の高さを発揮することができました。また、燃費記録も約20km/Lの向上と、改良の効果を確認することができました。一方で、バッテリー切れにより最終計測をリタイアしてしまったことは、車両整備が十分に行き届いていなかったことによる結果となってしまいました。今後の目標は、新規車両を製作し、軽量化、カウル作成による空気抵抗の低減を実現させること、ガソリンエンジンからEV部門へ移行することです。

Special Interview

～研修旅行～

研修旅行について

機械工学科3年 **下 晴人**

研修旅行を終えて

このたびはコロナ禍で大変な時期の中、研修旅行という機会を設けていただき、誠に有難うございました。今回の旅行では、様々な企業において高専出身エンジニアの先輩からお話を聞くことができ、将来のエンジニアに必要な考え方等を学ぶことが出来ました。東レ・カーボンマジック㈱では、炭素繊維を用いた車やバイクのボディー、医療製品など幅広い種類の製品の開発現場を見ることができ、一層一層を手作業で張り合わせる細かな製作に感動を覚えました。㈱京都製作所では、食べ物や製品のパッケージなどを全自動化で生産する機械をオーダーメードで一つ一つ製作していました。機械の規模にもよりますが、人生で200機の誇れる機械をつくるやりがいに魅力を感じました。三菱電機㈱姫路製作所では、巨大なプレス機による迫力ある金属加工だけでなく、くらしを豊かにするための半導体・デバイスや電子機器などの最先端技術をクリーンルーム環境でつくり続けるスケールの大きさに圧倒されました。

まだまだ未熟な私たちは、今回の経験を活かして、自分の将来を真剣に考えていきたいです。

電気電子工学科3年 **山田 龍澄**

研修旅行の思い出

「そんなに荷物はいらないよ」

お母さんにそう言われるまでキャリーケースの中パンパンになるまで荷物を入れるほど楽しみにしていた研修旅行。バスに乗るところから、帰って家に着くまで一瞬も面白くない瞬間はありませんでした。

そんな中でもいちばん面白かったのが、みんなで遊ぶ時。バスの後ろのメンバーでトランプしたり、ホテルの部屋でみんなで楽しく遊んだり、自由研修中にはっちゃけたり。全てが僕の楽しかった思い出です。ついはっちゃけ過ぎて、色んなものを買いすぎました。今でさえもう使ってないものはもう幾多とあります。お土産も沢山買いました。

家に帰って、楽しかった研修旅行の大量のお土産をお母さんに見せると

「こんなにお土産いらないよ」

Special Interview

～研修旅行～

研修旅行について

電子情報工学科3年 **中尾 悠**

研修旅行で学べたこと

コロナ禍がある程度落ち着き、私たちは幸いにも研修旅行に行くことができた。行動範囲は中部、近畿地方に限られたが、学べたことは数多くあった。その中で個人的に一番の収穫は、自分が狭い世界に生きているということを知り、見聞を広めることができたことだと思う。

今回の研修旅行では滋賀、岐阜、愛知を巡り、各地で企業見学を行い、美味しいご飯を食べることができた。ひつまぶしを食べたときはこんなにおいしい食べ物がこの世にあるのかと驚いた。企業見学では今まで進路を考えるときに考えたこともなかった企業を回り、それぞれの企業で活躍し、充実した生活を送る先輩方の姿を見ることができた。自主研修旅行で行った有馬温泉は幻想的な環境で最高の温泉に入ることができたし、大阪の難波では多くのグルメを楽しむことができた。

三泊四日という短い期間、近畿・中部地方の中だけで味わったことがない料理、見たことがない景色、考えたことのなかった働き方など多くの発見があった。まだまだ見たことのないもの、知らないことが世の中にはあると思い知らされた。視界を広げることができた。本当に行って良かった。

物質工学科3年 **三村 昌也**

3C研修旅行

私たち3C（物質工学科）は研修旅行で2社の企業様を見学しました。11月7日（月）に日華化学株式会社・本社様を訪問しました。この日華化学株式会社様では、会社紹介、建物見学、物質工学科を卒業された社員様から業務内容を拝聴しました。社員の方々が働いておられる様子を実際に拝見し、デスクワークする机は固定席でなく業務や作業グループに応じて自由に机を選ぶことに驚きました。さらに、社員様のお話を伺い、「高専の勉強も友人との学生生活も貴重な時間であること」に改めて気づきました。11月8日（火）に東洋紡株式会社・敦賀事業所様を訪問し、会社紹介を拝聴しました。24時間稼働している製造現場を拝見することができ、その製造工程についてご説明をいただきました。製品が出荷されるまでには多くの社員様が関わっており、製造現場の安全管理も製品の品質管理もチームワークとコミュニケーションを土台にして「責任を持って働くこと」が大切であると感じました。私たちはこの研修旅行を通して、自分たちの将来の就職についてほんの少しだけ現実感が増し、たくさんのかけがえのない時間を得ることができました。

Special Interview

～研修旅行・校外研修～

研修旅行について

環境都市工学科3年 **大澤 愛翔**

研修旅行について

『研修旅行』は高専生活のなかで最も楽しみなイベントと言っても過言ではありません。

私たち環境都市工学科は、初めに京都市役所に行き、職員の方から各部署の案内および説明を聞きました。とても学びのある貴重な体験になりました。次に、天ヶ瀬ダムの洪水吐きゲートまで降り、ダムの大きさを体験出来ました。

2日目は石清水八幡宮や万博ビースト、神戸モザイクでクラスメイトと思い出を沢山作りました。また、阪神高速道路震災特別保管庫、明石海峡大橋に行きました。震災時に実際に崩れ、取り壊された高速道路を実際に見ながら説明を聞くことで、自分達がエンジニアとして作ろうとしているものは、非常時に多くの被害をもたらすことがあるため、ミスが許されない事を改めて自覚させられました。また明石海峡大橋を見て、その大きさに圧倒されました。このような大きな構造物を設計するのは本当にすごいなと思いました。

3日目からは自主研修となり、そこでもまた各自、学びや思い出ができたと思います。

研修旅行で得た学びや思い出は、担任の先生や市役所や企業の方々の協力のおかげだと思います。この経験を生かしこれから進路などを考えていきたいです。

校外研修について

電気電子工学科2年 **佐原 瑞稀**

校外学習で学んだこと

私たちのクラスは、校外学習で株式会社シャルマンと株式会社オーディオテクニカに行きました。

午前は、株式会社シャルマンに行きました。見学をする前、シャルマンはモノを作る会社なので電気電子工学科ではなく機械工学科の知識が必要とされているのではないかと考えていました。実際は機械工学科の知識も必要でしたが、作業の効率化のためやシステムの制御のために電気電子工学科の知識も必要とされているのだと知りました。

午後は株式会社オーディオテクニカに行きました。まず、ホールに案内され、会社にホールがあることに驚きました。しかし、それ以上にホールで聞いた音質の良さに感動しました。ここで使われている機械の至る所に今学校で学んでいることが使われていました。学校で学んでいることが社会に出てから本当に必要なのか疑問でした。ホールに座って、今学んでいることに意味があるのだと改めて実感しました。

今回の校外学習では、学校で学ぶことがどのような形で必要となるのか知ることができ、就職への意欲が増しました。また、勉強への姿勢を見つめ直す良い機会になりました。

Special Interview

～校外研修～

校外研修について

2EI 道下 智礼

校外研修に参加して

私達のクラス(2EI)は11月に校外研修として2つの会社を訪問しました。最初の訪問先であるオーディオテクニカフクイでは音響測定で使われる無響室や工場で作られたワイヤレスマイクなどの精密な電波測定を行う電波暗室に実際に体験入室して説明を受けました。また、カラオケで使われているマイクのほとんどがこのオーディオテクニカで作られていると聞き、福井県内の企業で作られているものが身近にあることがわかってとてもうれしく思いました。

次に訪問したのは福井高専卒の福野泰介さんが設立したJig.jpです。福野さんは「一日一創」という目標を掲げ、1日に1つのプログラムを作成しているとおっしゃっていました。対象はゲームからオープンソフトまで幅広い開発を手がけられ、プログラマーとしてとても尊敬します。ほかにも社員の皆さんが実際に仕事をしている様子を見学させていただき、とても有意義な研修となりました。来年には研修旅行があり、いろいろな企業を訪問する機会があるかと思いますが、そういう機会を大事にして自分が将来就きたい仕事やキャリアデザインについて考えていきたいと思います。

令和4年度 第2学年校外研修先一覧

研修日	学科	研修先	引率者
11月1日(火)	機械工学科	パナソニック インダストリー株式会社	森 貞 芳賀 正和
		株式会社松浦機械製作所	
	電気電子工学科	株式会社シャルマン	門屋 飛央 丸山 晃生
		株式会社オーディオテクニカフクイ	
	電子情報工学科	株式会社オーディオテクニカフクイ	東 章弘 斉藤 徹
		株式会社jig.jp	
	物質工学科	福井県食品加工研究所	松井 一洋 古谷 昌大
		株式会社SHINDO	
	環境都市工学科	オカモト鐵工株式会社(梅浦バイパス工事現場)	木村 美幸 芹川由布子
		独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構(敦賀駅)	

Special Interview

～文化体験日～

文化体験日について

F3 松尾 太智

文化体験日について

僕は、文化体験日に、福井県立歴史博物館に行きました。当日が雨天となったため、予定とは別の場所になったものの、多くの発見がありました。昭和の街並みが再現されているエリアでは、まさに、昭和レトロといえるようなリアリティのある街が、細かいところまで施されていて驚きました。のちに聞いたところ、父が幼かったころの当時の電話や井戸も同じようなものだったらしく、改めて展示のすごさを実感したことで、印象に残りました。また、さらに前の時代についても多くの展示がありました。例えば、福井地震について紹介されているところでは、戦後間もないにもかかわらず当時最大震度である6を記録したこの地震の被害を白黒写真などを通して、より深く学び今後の地震に対する備えをより良いものにしていこうと思えるよい経験ができました。

そして、この体験について考えをまとめ、クラスで共有したことで、互いが新しい発見をできました。そこで得たことは、互いの考えを知るきっかけにもなり、この行事を本当の成功に導けたと思います。いい思い出にもなってよかったです。

F5 梶 京四朗

文化体験日

11月1日、私達は福井市自然史博物館へ行った。博物館は山の上にある。だから、たどり着くには少し体力がいる。そのかわりに空気はおいしい。また眺めもよい。

博物館の中には、自然史に関する貴重な資料が数多くあり、私達の勉強になった。またパズルゲームもあり、これも意外と難しくて苦戦した覚えがある。特に私が印象に残ったのは、昆虫のコーナーである。30cmほどのナナフシが見えた時にはとても驚いた。またヘラクレスオオカブトが2匹ぐらいいて、これも非常に驚いた。

また、博物館では、屋上まで上ることができ、そこから福井市街を一望することができる。殿様になったようないい気分になれるので、お勧めである。

さて、ここからは私自身の話になるのだが、実は文化体験日の日にちを間違えて、前日の10月31日に一人で福井に集合(?)してしまったのである。カラクリはこうだ。単純に10月は30日で終わると勘違いしていたのである。その日は約9kmの道を自転車で漕いできたので、自身の過失に気付いた時には思わず泣きそうになった。皆も毎日カレンダーはちゃんと確認しよう!

Special Interview

～退職にあたって～

環境都市工学科 **奥村 充司**

さらば、福井高専軍 夏空に　鞠とゞまるは

快音を残して舞い上がった白球、もはや放物線の頂点に。

田圃野球の少年時代。桜の季節ともなれば早起きして仲間と桜の河川敷を占拠。阪急電車の虎や勇者をYG帽で待ち受けた。その夏に甲子園出場となる高校を受験するも、高校三原則の蜷川寅三政権下で府立高校新設条例が可決。渡月橋、天竜寺を経て大覚寺が通学路。甲子園に行きそびれた連中と1年生だけの夏、公式戦初得点は私のバット。甲子園5回出場の母校は高野連加盟以来48年間夏初戦完封負け無し。

出身地を離れ先祖ゆかりの福井に赴任。水道原水水質の安全性を探求。流域の利水から治水、環境まで関わる。だるま屋新店舗ができた頃、応接間に「山路来て何やらゆかしすみれ草」の色紙が飾られていた下馬の菩提寺住職の言葉がよぎった。戦後、対岸決壊で万歳の水防団、今度はこちら側だと。

衛生・環境工学以外に亜空間情報学も指南。昨今のエセ環境ビジネスには少々戸惑う。帆山橋付近から越前富士を画いた一枚の絵。制作中に林道建設。画家が土色で描き殴った切土の山肌も経年劣化で色褪せ、法面緑化されたかのよう。新幹線が走り、山々に竹とんぼが並び立つ日も近い。

ご令室が学科棟の玄関に花を活けて下さる或る先生が在職中、学生が教官室の所在プレートの「退出」を「退屈」と加筆。まだまだ退屈先生の域にはほど遠いが学生らと贅沢な日々を送ることができた。

さて、よく万歳していたスタンドアローン型だった中堅手のグラブにそのウイニングボールは収まった。苦節16年、野球殿堂入りした作曲家のメロディが球場に響き渡った。

本校が日本の行く末をしっかり受け止める技術者教育のハブたらんことを祈念する。

総務課課長補佐 **西川 和浩**

退職にあたって

私は昭和60年4月1日付けで福井医科大学に文部事務官として採用され、社会人としての生活をスタートしました。特に平成8年4月からの6年間、この福井高専で働けたことは自分の人生の中で大きな意味があったと思っています。人事係では外国人教員の採用の際、俸給協議を文部省に上申したり、外国人教師と契約したりと初めての経験ばかりでした。仕事以外では、お昼休みにはテニスコートで汗を流す日々でした。校内テニス大会では当時の生越校長先生とダブルスを組ませていただきました。しかし大学に戻った後は、国立大学法人化の影響もあり、テニスとは遠ざかってしまいました。その後、令和元年7月に再びこの福井高専に帰ってくることができました。ただ、思いがけない「新型コロナウィルス感染症」の流行もあり、危機対策本部会議を令和3年度には24回も開催するなど、対応に追われました。一方で、図書館の本を借りて読むのが新たな楽しみとなりました。現在の田村校長先生からは「生命のスケッチブック」という、高専生を亡くされたお母様の想いがつづられた本をお借りして読ませていただき、命の重さに胸が熱くなりました。

令和4年は高等専門学校制度創設60周年の節目を迎えましたが、私が生まれた昭和37年に第一期校が開校されたことを知り、高専教育の歴史の重みを感じています。高専で働けたことに感謝するとともに、これまでお世話になった教職員の皆様に御礼申し上げます。最後に、福井高専の益々のご発展と教職員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

～学校通信～

令和4年度 福井工業高等専門学校卓越した学生の表彰及び第2回学生表彰受賞者一覧

福井工業高等専門学校卓越した学生

機械工学科5年	福谷 和信	生産システム工学専攻2年	森川 凱都

校長特別賞

第57回全国高等専門学校体育大会優勝(個人)

陸上部	機械工学科2年	笠原 彰紘	男子走高跳 優勝
水泳部	機械工学科4年	岩田 純弥	•4×100mメドレーリレー 優勝 •4×100mフリーリレー 2位
	環境都市工学科3年	佐々木 俊亮	•100m平泳ぎ 優勝 •4×100mメドレーリレー 優勝 •4×100mフリーリレー 2位
	電気電子工学科2年	谷口 柊弥	•50m自由形 優勝 •100m自由形 優勝 •4×100mメドレーリレー 優勝 •4×100mフリーリレー 2位
	電気電子工学科1年(F4)	本間 詩也	•4×100mメドレーリレー 優勝 •4×100mフリーリレー 2位

第57回全国高等専門学校体育大会優勝(団体)

女子バドミントン部

第33回全国高等学校アマチュア無線コンテスト高校マルチオペレータ 7MHz部門•優勝(団体)

アマチュア無線研究会

校長賞

The 20th International Symposium on Geo-disaster Reduction：BEST PRESENTATION AWARD受賞

環境システム工学専攻2年 井波 大地

第57回北陸地区高等専門学校体育大会優勝(個人)

陸上部(男子110mハードル)	電気電子工学科2年	齊藤 翼
卓球部(男子シングルス)	環境都市工学科3年	保木 克也
バドミントン部(女子シングルス、ダブルス)	物質工学科3年	笠松 青夏
バドミントン部(女子ダブルス)	物質工学科2年	細井 遥和
剣道部(男子個人)	電気電子工学科4年	青木 智矢

第57回北陸地区高等専門学校体育大会優勝(団体)

ハンドボール部

第55回全国高等専門学校サッカー選手権予選北信越大会優勝(団体)

サッカー部

第33回全国高等専門学校プログラミングコンテスト課題部門「特別賞」受賞

電子情報工学科4年	泉 秀哉	電子情報工学科4年	松田 張万	•NICT賞同時受賞
電子情報工学科4年	伊藤 晴仁	電子情報工学科4年	山岸 優宏	
電子情報工学科4年	並河 壮真			

第19回全国高等専門学校デザインコンペティション創造デザイン部門「審査員特別賞」受賞

環境都市工学科4年 窪田 多久見

第42回近畿高等学校総合文化祭和歌山大会【将棋部門】個人A級優勝

電子情報工学科1年(F5) 梶 京四朗

奨励賞

1年間学業成績優秀者

電気電子工学科5年	大澤 介成	電気電子工学科4年	市村 音羽	電子情報工学科2年	東 菜々花
電気電子工学科5年	木下 颯	電気電子工学科4年	小林 拓斗	電子情報工学科2年	宮本 結生
電気電子工学科5年	田中 伶奈	電気電子工学科4年	高橋 壮汰	物質工学科2年	細井 遥和
電気電子工学科5年	出丹保 雄基	電気電子工学科4年	野尻 健人	環境都市工学科2年	松田 岳
電気電子工学科5年	矢路 耀	電気電子工学科4年	濱 歩空		

TOEICにおいて成績優秀者

電子情報工学科5年	荒井 一歩	機械工学科4年	吉野 晃	電気電子工学科4年	濱 歩空
電子情報工学科5年	小川 大翔	電気電子工学科4年	野尻 健人	環境都市工学科4年	窪田 多久見

第57回北陸地区高等専門学校体育大会入賞(個人)

電気電子工学科1年(F3)	土肥 美結	卓球部(女子シングルス)2位	物質工学科4年	大西 ほの香	バドミントン部(女子ダブルス)2位
機械工学科2年	竹下 美咲	卓球部(女子ダブルス)2位 (女子シングルス)3位	環境都市工学科4年	田嶋 倖奈	バドミントン部(女子ダブルス)2位
機械工学科1年(F1)	小辻 花恋	卓球部(女子ダブルス)2位			

第57回北陸地区高等専門学校体育大会入賞および第35回福井県高等学校新人水泳競技大会優勝(個人)

機械工学科1年(F5) 山﨑 淳矢 水泳部 •北陸地区高専体育大会 100m自由形3位 •福井県高校新人競技大会 50m背泳1位·100m背泳1位

第57回北陸地区高等専門学校体育大会入賞(団体) 卓球部女子団体 2位

～学校通信～

部・同好会の紹介

部活動として体育部が19、文化部が9、同好会が13あり、
幅広い分野で活発な活動が行われています。

体育部 サッカー部

サッカー部は令和4年度高専北信越大会で優勝、全国大会で3位の成績を収めました。日々の練習では、支えていただいている皆様への感謝を胸に、情熱を持って躍動し、更なる勝利に向けて鍛錬を続けています。

指導教員 佐々 和洋、長水 壽寛、蓑輪 圭祐、古谷 峻熙

体育部 野球部

野球部は、1年生から3年生までの低学年チームと4年、5年生の高学年チームに分かれて活動しています。低学年チームは県大会の好成績、高学年チームは全国高専大会優勝を目指して日々の練習に励んでいます。

指導教員 辻野 和彦、青木 宏樹、奥村 充司、金田 直人、伊勢 大成、土田 怜

体育部 バドミントン部

バドミントン部は、男子は全国大会出場、女子は全国大会連覇を目標に日々の練習に励んでいます。週3日という少ない練習日数の中でも一人一人が集中しメリハリをつけて活動しています。初心者の方もやる気があれば大歓迎なので是非見学に来てください！

指導教員 山脇 夢彦、斉藤 徹、西野 純一、小越 咲子、古谷 峻熙 上島 晃智

文化部 建築構造デザイン部

私たち建築構造デザイン部は年に一度のデザコン大会に向けて月、火、水、木曜日の週4日、最強の紙の橋を作っています。構造学や材料学などを学びながら設計し、Auto Cadで作図後、作品を製作します。楽しみながら専門知識を増やしたい人にオススメです。

指導教員 樋口 直也

同好会 書道同好会

書道同好会は、設立2年目を迎えました。今年度の成果は、高専祭での作品の展示と福井新聞社主催の書初め競書大会への参加です。来年度の目標は、部員全員のかきぞめ競書大会入賞です。そのための書道スキルの向上が来年度の課題となります。

指導教員 山田 哲也

同好会 セパタクロー同好会

我々セパタクロー同好会は男子約20名で日々活動しています。顧問の松井先生と一緒に2年生を中心に週に一回程で行っています。そもそもセパタクローってどんなスポーツかわかりますか？是非体験に来てみてください！

指導教員 松井 一洋

その他の部・同好会一覧

体育部門

- 陸上
- 卓球
- 男子バスケットボール
- 女子バスケットボール
- ラグビー
- 男子バレーボール
- 女子バレーボール
- テニス
- ソフトテニス
- 剣道
- ハンドボール
- ソフトボール
- 少林寺拳法
- 水泳
- 合気道
- 軟式野球

文化部門

- 英語
- モダンミュージック
- 吹奏楽
- 囲碁・将棋
- ロボット
- アマチュア無線研究会
- 放送・メディア研究会
- 空間デザイン

同好会

- 天文
- 茶道
- 日本現代視覚文化
- サイエンスクラブ
- フットサル
- ダンス
- 音鍵研究会
- スポーツクライミング
- グラフ電卓研究会
- 珈琲
- プログラミング研究会

Special Interview

～学校通信～

研究室紹介（FUKUI-KOSEN Labo・Profile）

福井高専では誰がどんな研究をしているのか―
そんなモヤモヤを晴らすべく、研究室を主宰する先生方にレッツ、インタビュー！

Profile-02 高橋奨 研究室（機械工学科）

Q1.何の研究をしていますか？

主に焼き物（セラミックス）に関する研究を行っています。焼き物といっても、構成される元素の種類や構造を制御することで、様々な機能を持たせることができます。私たちの研究室では、クリーンエネルギーとして期待されている『燃料電池の材料開発』や自動運転などのセンシング技術に必要な『電波を発信・受信できるセラミックス』について研究しています。

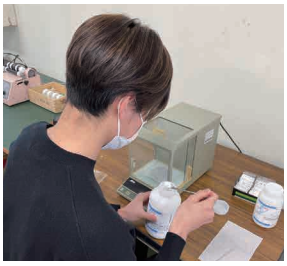
Q2.どのような方法・環境で研究していますか？

セラミックスの多くは元素が規則的に配列されています。その規則性を崩すことや、元々ある元素を別の元素へと入れ替えることで、新しい機能を発生できないか調べています。基本的に焼き物なので、原料を混合した後、それらを加熱することで焼き固めて作ります。作成したセラミックスの機械的・電気的・熱的特性などを評価することで構成元素や構造との関係性について調べています。

今年度は本科5年生6名と一緒に課題解決に向けて研究を行っています。

Q3.その研究の面白いところは？

機械工学科と聞くと大きな乗り物やロボットなどの設計・制御をイメージする人も多いと思います。私たちの研究では、ミクロの世界から設計・制御を行うことで、機械をより安全で省エネルギーに機能させるシステムに貢献できる点が面白いところだと考えています。また、研究領域としてエネルギーや通信といった世界全体での課題解決と発展が要求されている分野であり、その技術開発に貢献できる点が面白い点だと思います。



Profile-03 松井一洋 研究室（一般科目教室）

Q1. 何の研究をしていますか？

専門分野は「スポーツバイオメカニクス」です。スポーツの中で身体がどのように動いているか、条件が変化するとどのように動きが変化するかなどを、力学を中心に説明しようとするものです。

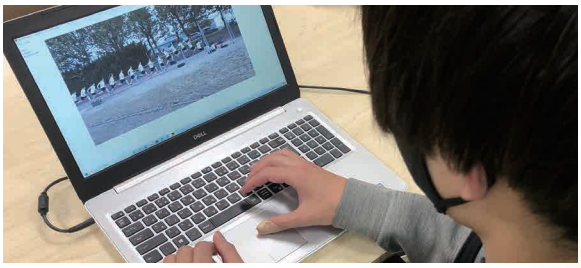
Q2. どのような方法・環境で研究していますか？

専門分野が同じ保健体育科の東先生と共同で実験・研究をしています。多くの研究は、映像や画像から身体の姿勢を座標化し、運動中の関節角度変化や重心速度などを調べる動作解析という方法で分析しています。これまでの研究では、足関節サポーターを着用したときのバランス能力や歩行動作の変化を調べたり、体育授業にスポーツバイオメカニクス的分析を取り入れたり、大がかりな実験設備がない分、幅広く研究を行ってきました。

物質工学科の川村先生とは遺伝子と身体能力についての研究、電子情報工学科の波多先生や技術職員の久保さんとは陸上用ストップウォッチに関する研究で他専門分野の先生方とも共同研究しています。

Q3. その研究の面白いところは？

スポーツバイオメカニクスの特徴のひとつとして、動作を数値化することが挙げられます。数値化することで、動作や技術のコツを客観的に見つけることができます。私は運動が苦手なので、感覚的に指導されることに納得することが出来ず、この分野に興味を持ちました。戦術戦略と同じように、身体動作にも「なぜそうしたほうがいいか」はあるのです。



令和4年度 学校行事写真

明るい選挙出前塾

服育講演会

性犯罪予防講演会

鯖江市長表敬訪問

越前市長表敬訪問

ガリレオコンテスト報告会1

ガリレオコンテスト報告会2

ガリレオコンテスト報告会3

ガリレオコンテスト報告会4

税と社会保障の講演会

プロコンアバナード賞授賞式

危険物取扱資格表彰状伝達

第2回学生表彰1

第2回学生表彰2

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト表彰

編集後記

最近、それなりに分かっていたつもりのことが、よく考えると実は間違って理解していたことが分かったり、Webや教科書に書いてある記述がどうやら間違っていることが分かったり、といったことが度々ありました。基礎に立ち返って物事に対峙する姿勢は大事なんだなあと実感する今日この頃です。（松浦）

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日：令和5年3月17日

お問い合わせ

福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL：0778-62-1111